

2009
11/3
(火・祝)
第64回

大英博物館における日本美術修復と その公開への試み

講師 杉山恵助 氏 / 大英博物館シニア・コンサバター

美術品修復の分野は日本文化研究とのかかわりが非常に深い。アート・リサーチセンターにおいても、撮影対象の作品の補修、保護を行っているが、修復分野の最新の実情を知る機会は非常に少ないというのが現状である。
大英博物館の東洋絵画修復室、平山スタジオはヨーロッパ随一の日本美術品修復機関として知られている。2007年からは京都の文化財修復界で中心的役割を担う宇佐美松鶴堂で修行を積んだ杉山恵助氏をスタッフとして迎え、破損がひどく、長年展示がかなわなかった主要作品の修復を積極的に進めている。
大英博物館は多文化のさまざまな所蔵作品に対応できるように数々の専門修復スタジオ、スタッフを抱えているが、これまで修復の過程に関する外部への紹介の機会は多かったとはいええない。しかし近年では、修復を博物館の重要な活動の一部としてとらえ、そのウェブ上での公開の試みが始まっている。
本講義では平山スタジオの活動の紹介、日本美術修復におけるデジタル技術の役割、大英博物館が進めている修復作業の映像の公開を軸に、海外での日本美術修復の現状について講演をしていただく。

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/GCOE/seminar/>

GCOEセミナー：特別編

2009
11/6
(金)

学術知を市民知に変える学術情報発信へ — 特にウェブ活用の観点から

Academic Web for Civil Society

番外編 vol.15

講師 岡本真 氏 / メールマガジン ACADEMIC RESOURCE GUIDE 編集長

インターネット、特にウェブの活用が本格化して10年以上が経過した。この間、元々学術利用から始まったウェブだけに、様々なデータベースが作成され、ウェブで公開されている。また、大学や研究機関はもとより、学会や研究者といった組織と個人によるウェブでの学術知の発信も様々な事例が見られるようになった。しかし、これらの取り組みは、様々な可能性を示しつつも、課題も少なくない。特に当該分野の研究者にしか活用できない、あるいは当該分野の研究者であっても利用にノウハウを要するデータベースが存在する。また、研究者コミュニティでのみ通用し、理解される学術情報発信に留まっているサイトもしばしば見受けられる。本講演では、インターネットの学術利用をテーマにしたメールマガジン ACADEMIC RESOURCE GUIDE (ARG) を10年以上編集・発行してきた経験と、Yahoo!知恵袋を企画・設計する等、同じく10年以上に渡ってウェブプロデューサーを務めてきた経験に依拠し、専門家集団のみならず、広く市民・社会に理解・受容される学術情報発信のあり方について議論する。

立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム
[18:00-19:30] 参加無料 (予約不要)

※インターネットでも参加できます。インターネットでの参加を希望される方は、kkt27007@lt.ritsumei.ac.jp まで、その旨ご連絡ください(担当、楠井)。

【主催】文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(立命館大学)

【問い合わせ】立命館大学 研究部 人文社会リサーチオフィス内 アート・リサーチセンター事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 TEL075-465-8476(平日9時~17時30分) arc-jimu@arc.ritsumei.ac.jp

